

「主イエスに出会おうと…聖霊が働かれると…」

ヨハネ4：28～30、39～42

たった10秒の証言で次々と人々が救われた (サマリヤの女)

「わたしのしたことを何もかも言いあてた人がいます。さあ、見にきてごらん下さい。もしかしたらこの人がキリストかもしれません。」この短い、たった10秒程の言葉でサマリヤの町にリバイバルが起こりました。この女性はどういう人だったのでしょうか。人々が誰かの言葉を受け入れる時はどんな時でしょうか。当然、語っている内容が真実でないといけません。内容が真実であるかどうかはどのように立証するのでしょうか。その人が信用できるかどうかは名刺を見たり、経歴や学歴、人柄、品性を見ます。しかし、このサマリヤの女は信用できる品性、素質に欠けた不道德な女でした。5回の結婚をし、社会の底辺にいた落伍者で、人から後ろ指をさされ、のけものにされていました。人々の前に出たくない、だから人目につかない時間に井戸に水を汲みに来ていたのです。はじめは水の話(世間話)をしていましたが、乾くことのない水の話に展開していきます。サマリヤの女とイエス様の対話は、私達の祈りが幼稚な祈りから、次第に神様の御懐の中に入っていきような、神様の御声が聞こえるような祈りに引き上げられていかなければならぬことを表しています。サマリヤの女はイエス様と親しい対話をし、率直な罪の認識をしました。そして真の礼拝のありかたを知り、信じました。サマリヤの女は一度の出会いによって人生を変えました。その変えられた一人によって多くの人が人生を変えました。経歴も学歴も、知識も信仰も、品性も身だしなみも人から信用される要素は何も持ち合わせていなかったにもかかわらず、神様が臨まれるとその人の内側から栄光が現れるのです。人前に出ることができなかつた女が造り変えられた姿、内側がイエス様の栄光で輝いている姿を見て人々は証を受け入れたのです。私達は日曜日だけでなく、毎日の生活の中でイエス様に出会う時間、つまり対話を大切にしなければなりません。日毎の神様との対話は1日の生業を左右します。日毎の対話の質を高めていくと聖なる情熱が与えられます。

たった数滴の涙で頑固な老人が救われた (北野先生の証)

私が信じて伝道者となった後、父母もクリスチャンとなりました。祖父(父の父)はキリスト教を嫌い、母のことをいじめました。私は宣教のためにハワイに行くことになり、祖父に挨拶に行きました。伝道しなければと思うが、祖父の性格を考えると何を伝えていいかわからず、「お元気で。」と部屋を出ようと思いました。その時に「それでいいのか」と自分の中で声が聞こえました。「神様ごめんなさい、私には何もできません。」「本当にそれでいいのか。」もう一度聞かれました。祈ることならできると思い、おそるおそる祖父に「お祈りをしていい？」と尋ねました。怪訝な表情で受け入れたおじいちゃんの肩に手を置

いたものの、ふさわしい言葉は頭の中に、どうしても浮かびません。どのように祈ったのかは覚えていません。ハワイに行った後、母から手紙が来ました。ある日教会に行くと祖父が座っていた、と。「来てくれてありがとう。」と言う母に、「あんたが言うから来たんじゃない。光一がハワイに行く時に、涙を流しながらお祈りというものをしたんや。その時に頭の上に涙を流しよった。わしのために涙を流さんといかんほど神様が大事ならわしはそれを探しに来たんや。」と話したそうです。その後も続けて教会に通うようになり、「ここで自分の葬儀をしてほしい。」と言いました。そして、神様を信じ、洗礼を受けました。その2年後、祖父は天国に召されました。私自身は涙を流したことも覚えていません。神様が何とかしてくれないと私は部屋を出ていくことができない。」と、ただもがいていました。いつも正しい声が聞こえるように私達は心の耳を澄ましていなければなりません。おじいちゃんの頑なな心を溶かしたのは祈りではなく、流された数滴の涙でした。

私達は土の器です

神様は資格があるから用いてくださるのではありません。能力があるから用いてくださるのではありません。私達は土の器に過ぎません。神様はこの土の器を用いてくださいます。欠けだらけだからこそ、ヒビだらけだからこそ、そこからもれる輝きが人を救いに導くのです。表にあって用いられる人、陰にあって仕える人、様々な用いられ方があります。欠けだらけの、ヒビだらけの土の器である私を捧げます。新しく練り鍛えていただきましょう。そして、サマリヤの女のようなよき証人とし用いていただきましょう。

よき証人となるために

大切なことはイエス様に出会うこと。そして、自分自身が抱えている水瓶、つまり憎々しい心や忌まわしい過去、許せない心、神様が喜ばれないものすべてを神様の足元に置いていくことです。整理できない過去も、癒されていない心の傷も、自己不信や自己嫌悪も一切のものをイエス様の尊い血潮の下に置いていくのです。いつまでも持っているとな成長できない、よき証人にはなれません。神様のかすかな声を聞き分けることができるためには、教会に集うこと、御言葉を蓄えること、神様と対話する時間を持つことが大切です。私達は日々造り変えられて新しくされています。上がったたり下がったり、時にはとんでもないことが起こります。ドスンと落ちることも飛び上がるようなこともあります。それでも日々前に進んでいるのがクリスチャンの姿です。毎日造り変えられ新しくされ、1人1人がよき証人として生きられますように。

(要約者:藤原 友規子)

(10月9日)